

目指す姿 県民の利便性の向上と業務の合理化・高度化に伴う人的資源の効果的活用と安全安心の更なる確保

第1期到達目標

業務プロセスやシステム全体のデジタル化による『アナログからの脱却』

I.行政手続き等のデジタル化による利用者サービスの向上

II.先端技術の活用による業務の合理化・高度化

III.デジタル化を実現するための人的・物的基盤の強化

令和5年度

令和6年度

令和7年度

I  
サ  
ー  
ビ  
ス  
の  
向  
上

- ◎ 防犯スマホアプリ「どこでもポリス」導入(生活安全部)
- 自動音声ガイダンスの導入(交通部/警務部【現:総務部】)
- 広報センターリニューアル,AR・VR技術導入(総務部)

C

- ◎ 運転者管理業務の高度化(交通部)
- ◎ キャッシュレス決済導入(警務部【現:総務部】/交通部)⇒東中西免許センター
- 学校等における非行防止教室等のリモート化(生活安全部)
- 「どこでもポリス」改修(警備部)⇒災害情報の発信機能を追加

B

- ◎ 行政手続オンライン化への対応(全部門)
- キャッシュレス決済の拡充(交通部/総務部)
- ⇒ 県下全警察署(浜北署除く)免許窓口へ拡充,利用者満足度は高く好評

A

- 評価
- コロナ禍における「新しい生活様式」の定着やデジタル技術の急速な進展等社会情勢の変化に適応した警察行政サービスを提供し,県民の利便性向上を図った
  - ⇒ 手数料納付や書類提出など手続きの完全オンライン化は未整備,窓口のキャッシュレス決済は免許手続きに限定,潜在的ニーズへの対応は将来的課題

B

II  
業  
務  
の  
合  
理  
化  
高  
度  
化

- ◎ 文書管理(電子決裁)システム(警務部)
- ペーパーレス会議システム,AI議事録を導入(警務部【現:総務部】)
- 情報登録ツール/BIツール導入(警務部/総務部)
- 通信指令システムと統合GISの連携(地域部/総務部)
- バーコードによる拳銃保管管理(総務部)

A

- ◎ 新ウェブ会議システムの導入(警務部【現:総務部】)
- ◎ 暗号資産追跡ツールの導入(生活安全部【現:サイバー対策本部】)
- 統合型勤務管理システム(警務部)

B

- ◎ BPR(業務改革)の取組(総務部)
- ⇒ DXミーティング,民間視察,ワークショップ,システム統廃合検討
- ◎ 刑事手続のIT化(R5~刑事部)
- 児童相談所への児童通告のデジタル化(R5~生活安全部)

C

- 評価
- 働き方改革の推進やペーパーレス化への取組等バックオフィスのDX化,特殊詐欺やサイバー事犯等に対する捜査活動の高度化のほか刑事手続IT化に着手
  - ⇒ デジタル技術導入は進んでいるが,ツールやシステムを利活用しなくても業務目的が達成できるため浸透不十分,デジタル的ワークフローの策定が将来的課題

B

III  
人  
的  
・  
物  
的  
基  
盤  
の  
強  
化

- デジタル展示会(R4~警務部【現:総務部】)⇒AI等の先端技術展示
- デジタル推進塾(警務部【現:総務部】)⇒外部有識者による講演
- 高度情報技術者の採用(R2~警務部)
- 公用スマホ,テレワーク機器(警務部)
- 警察学校学生用PC整備(学校)

A

- ◎ スターリンクを活用した情報通信網の構築(警備部)
- ⇒ 災害時孤立地域対策
- ◎ リバースメンタリングの実施(R5~警務部【現:総務部】)
- SCVX(仮想ブラウザ)の導入(警務部【現:総務部】)

A

- ◎ 情報システム基盤の高度化(総務部)
- ⇒ 無線LAN接続/生成AIの試行実施
- サイバー人材育成基盤の導入(サイバー対策本部)
- デジタルリテラシーの向上

A

- 評価
- 展示会やリバースメンタリング等施策を展開/技術者採用・資格取得/組織的なリテラシー向上,災害時孤立化対策の強化/無線化/AI等先端技術の試行,次期に向けた基盤構築
  - ⇒ 旧来のアナログ的ワークフローが根強くマインドの転換が必要,財政事情やセキュリティ制約により物的基盤整備は限定的,システム統廃合を含む利活用促進が将来的課題

A

総合評価

- 「3つの柱」を中心に取組を展開し,多数のデジタルツールを開発/導入,職員の意識改革推進施策等DXの実現に向けた基盤づくりに一定の成果を上げた
- ⇒ 旧来のワークフローでも支障なし/意識改革や利活用の定着は道半ば,第1期で「3つの障壁」が顕在化,この解決が将来的課題
- a. 手段の目的化:変化が激しい環境の中スピードを優先,開発/導入が目的化するケースが散見,ニーズとの乖離/利用者視点が不足しシステムには改善の余地
- b. セキュリティ制約:個別最適による導入が進み全体最適によるプロジェクト管理が不十分,クラウド/生成AI/無線技術等の活用にはセキュリティ制約
- c. デジタルリテラシーの不足:同一業務にアナログとデジタルが混在/業務ルール未整備のためDXが普及せず,デジタル化への不安/リテラシー不足

B

概ね達成

第2期方針

- 『新たな治安事象への対応強化』
- 匿名・流動型犯罪グループ対策,サイバー事犯を始めとする犯罪の高度化,災害激甚化等,時代とともに変容する治安課題に対応するため,先端技術の活用を軸に警察力を強化
  - デジタイゼーションからデジタルイゼーションに完全移行するため,第1期を通じて顕在化した障壁を打破,次の3つの方針を「目的と成果志向」を念頭に推進
  - a. 「選択と集中」による戦略的導入:システム統廃合/BPRIによる予算創出,AI/無線LAN/ドローン/ロボティクス等先端技術のPoC(概念実証)/導入,県/他県警/警察庁と連携
  - b. 「ワークフロー2.0」の策定:業務標準化/生産性向上させるデジタル活用前提のガイドライン策定へ
  - c. 意識改革の推進とリテラシー向上:アナログとデジタルが混在する業務を整理しアナログ的ワークフローを撤廃/マネジメント層の意識付け強化/中核人材の計画的育成/リテラシー向上